

道院だより

No.25

金剛禅総本山少林寺 埼玉北浦和道院

2011年 2月5日(土) 発行

文責 道院長 梶谷 憲 皇

合掌

久しぶりの発行となります。

今年の年間行事予定です。変更になる場合もありますので、その際はご了承ください。

結手

連絡事項

2011年 行事予定

月	日	行事	備考
1月	22日(土)	新春法会	浦和美園道院
2月	5日(土)	事務手続き変更説明会・懇親会	北浦和「お好み焼きソース」
	20日(日)	審判講習会	埼玉県武道館
	27日(日)	埼玉武専	埼玉県武道館
3月	27日(日)	埼玉武専(昇格)	
4月	2日(土)	第1ブロック 少林寺拳法教室	浦和パルコ
	17日(日)	埼玉武専	
5月	5日(木)	埼玉武専	
	14日・15日	道院長研修会(予定)	本山
	22日(日)	さいたま市民大会	さいたま市駒場体育館
6月	5日(月)	埼玉武専	
	19日(日)	埼玉県大会	埼玉県武道館
	26日(日)?	合同練習会(北浦和・幸手・埼大・日工大)	幸手武道館
7月	3日(月)	埼玉武専	
8月	6日(土)	全日本少年少女武道錬成大会	日本武道館
	9日~19日	道院夏休み	
	26日(金)	道院合宿	国立 磐梯青少年交流の家
	~28日(日)		(福島県猪苗代町)
9月	19日(月)	埼玉武専	
10月	2日(月)	埼玉武専	
	16日(日)	全国大会 in かながわ	神奈川県
11月	23日(水)	埼玉武専	
	20日(日)?	合同練習会(北浦和・幸手・埼大・日工大)	幸手武道館
12月	4日(月)	埼玉武専	
	23日(金)	道院納会	

二〇一一年 埼玉第一教区

新春法会 門信徒代表挨拶

二〇一一年新春に、ここ浦和美園道院に、ご参集いただきました皆様におかれましては、益々ご健勝のことと推察いたします。こうして、少林寺拳法という縁のもと、埼玉第一教区、ブロッタの拳士、及び日頃より少林寺拳法の活動にご理解ご支援助を頂いております方々が一堂に会し、本年も、新春の行事が、このように盛大に挙行できます事に、深く感謝申し上げます。

さて、昨今の日本国内の情勢を見ますと、経済格差の二極化は益々進み、持つ者と持たざる者の差は、歴然とし、人々の生き方にさえ影響しています。高校大学卒業後の就職内定率も低く、氷河期と言われるほどの厳しい現状の中、未来に不安を感じている若者の少なくありません。また、昨年も、三万人を超える自殺者。働き盛りの四〇代、五〇代の自殺率は依然高く、現代社会の中で、孤独と不安にさいなまれ、自ら命を絶つ人々が未だこれほど多くいるのかと思うと、はたして本当にこの日本が平和国家と言えるのか、疑念を抱かざるを得ません。

また、国家レベルで見れば、我が国固有の領土に対する近隣諸国の不当な占領、そして、領土、領海侵犯等、決して、枕を高くして寝ていられる状況ではありません。世界に目を向ければ、果てしなく繰り返される、テロ。憎しみは憎しみを産み、「目には目を」という負の連鎖が、止まる事を知らず、今も世界のいたるところで、悲しみを産んでいます。これらの原因の多くは、欲望や執着、自己中心的で排他的な、人間の愚かな我執がその根底にあるのではないのでしょうか。

今や地球規模で深刻化している環境破壊による異常気象や天変地異も、こうした我々人間の、物や物質的豊かさへの果てしない欲望がもたらしたものであることは間違いないありません。

かつて、釈尊は、悟りの境地、つまり、平安な楽土とは、私たち人間が、こうした「欲」や「こだわり」を捨て、「無」になること、「空」になることだと説かれました。しかし、釈尊の時代より、二千五百年経った現代において、我々人間は、そうした、「我（が）」を捨てるどころか、益々、執着しているように思われれてなりません。

開祖宗道臣先生が、この日本の地に、少林寺拳法を創始されたのは、敗戦後の日本で、人々の生活も心も荒廃した状況を目の当たりにし、これでは日本はつぶれてしまうと感じたことに発します。そして、自らの利益のみを追い求めるのではなく、「半ばは自己の幸せを、半ばは、他人の幸せを」本気で考えられる人を、一人でも多く育て、「人づくりによる国づくり」を目指したからであります。

現代の日本、そして世界は、全体的には大変豊かに、便利になっています。しかし、国内、国外の情勢は、決して平和で安全な状況とは言えません。

今年、開祖宗道臣先生、生誕百年の年であります。この記念すべき年が、確かに平安とは言えない状況の中で、「広がるタイガーマスク運動」という、心温まる運動が、この日本で静かに広がっていることに、勇気づけられます。人は、確かに愚かな側面を持っています。しかし、他の人の役に立ちたい、社会に貢献したい、幸せな世の中を作りたいと願っている人は、確かにいるのです。いや、人間とは本来、人と人との間でしか生きられない生き物である

ということを考えれば、互いに援け合いながら生きていきたいと願うことは、至極当然の事なのかもしれませんが、「タイガーマスク運動」は、そういう人間本来の生き方を行うことへの、一つのきっかけだったのではないのでしょうか。

少林寺拳法の金剛禅運動とは、幸福運動であると開祖は言われました。少林寺拳法は、愛と勇気と行動力を兼ね備えた確かな自己を確立し、世の為人の為に、行動できる人づくりの道に他なりません。この、欲と我執の渦まく現代社会の中で、真の平和、真の幸せな世の中を作るために、この少林寺拳法の金剛禅運動を、益々、広く社会に広めていくことが、我々門信徒、拳士の役目であると確信いたします。

最後に、開祖生誕百年のこの年、社会の様々な情勢を鑑みながら、我々門信徒、拳士一人一人が、一層の自己研鑽と、少林寺拳法の修行に日々邁進していくことを、ここに表明し、誓いの言葉とさせていただきます。

二〇一一年 一月二二日

門信徒代表 埼玉北浦和道院
道院長 梶谷憲皇